

〔議会報告会：意見交換会〕

分科会：総務委員会 テーマ「小中学校教育における健やかな子どもの育成」

※分科会で出された質問・要望等は、岡谷市教育委員会に確認し回答しました。

No.	質問事項	回答
1	総務委員会として市民にPRしたい看板施策は何か。	<ul style="list-style-type: none">・本日のテーマですと、発達に課題のある子どもが増えてきているので、そこに早い段階で手厚い支援を行い、その子の個性を生かしながら周りに適応して学習についていかれるというような支援の充実、具体的には支援するアドバイザーが各学級に入っていくことにつながっていく。また、学校統合により岡谷田中小学校、神明小学校とスタートしているが、通学路の安全だけでなく子どもたちが元気で成長していられるよう議員は目配りしているし、今後もしていかなければいけないと思っている。・過去に岡谷市の小中学校の不登校の児童生徒がものすごく多くて、議会でも相当取り上げ、それにより改善された背景がある。・自分の子どもの経験から、子どもの不登校にはさまざまな原因があることは承知しているが、その原因をどうしたら取り除けるかとても関心を持っている。個性を持った子どもにはその子にあった環境を与えてあげないと健やかに成長できないと思う。障がいのある子、学びたいと思っている子、それぞれにいい環境が与えられたらいいと思うが、学校教育の限界を感じながらいかによくしていくかについて考えていきたい。
2	P T Aの問題ですが、今P T Aは全国的にみれば、任意団体だから抜きたいと思っている人もいるだろうし、積極的にやりたい人もいるだろう。岡谷市は表面化していないだけで、役員を押し付けられるなどの問題があると思う。市議会はP T Aの父母から意見聴取をしているのか。	<ul style="list-style-type: none">・市議会としてP T Aについて意見聴取したことはありませんが、必要性を感じましたので、検討させていただきます。・市教育委員会に確認したところ、P T Aの設置目的は、児童福祉、成人教育、保護者と教職員の連携、学校教育環境の整備、学区における教育振興を図ることを目的に設置されている。P T Aは、児童生徒のためだけでなく、親などの成人教育の場でもあり、親と教職員が協力する場ということも重要な目的の一つである。また、任意団体であるので、それぞれの団体で様々な課題もあるかと思うが、その団体の中で、関係の皆さまが話し合い解決していただく事項であると考えるところでした。
3	以前、各中学校区において、健全育成を進める大会があったと思うが、最近では、各学校で、地区懇談会の延長上に開催している。参加者も少なく、忙しいのか無関心なのか理解できない。健全育成を進める大会を毎年開催するのは大変だと思うが、何年かに一回やるとか市教育委員会から話はあるのか。	<ul style="list-style-type: none">・実際、会には決まった親御さんが出席し参加者も少ない。大会を開くにも先生方は相当な労力がいると思う。課題もあると思うので、その辺を伺っていきたい。・市教育委員会に確認したところ、子どもの健全育成を進める大会については、平成19年度までは、1会場で共通のテーマを設定し、各種課題を分科会で意見交換するといった取り組みであったが、平成20年度から中学校区を単位とする4会場に分散して実施し、平成23年度からは地域とのつながりを重要視し、各学校単位で実施している。こういった経過を踏まえ、現在は各学校を単位で実施しており、しばらくは継続するが、開催にあたって、子どもの健全育成について話し合う時間を確保することとしている。また、数年に1回は関係団体等が一同に会した大会の開催も検討するところでした。

No.	質問事項	回答
4	先日、伊那で学校の先生の盗撮が問題になったが、先生の適正をあらかじめ調べたり、先生が着任後にそういった問題を起こさないよう防止する対策をされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 市教育委員会に確認したところ、これまでも、様々な不祥事に対する防止対策に取り組んできている。長野県教育委員会では、綱紀粛正や服務規律確保等の通知や指導を行うとともに、懲戒処分の指針の見直しを行い再発防止に努めている。また、非違行為防止対策月間を設定し、教職員への研究を実施しその報告による検証などにも取り組んでいる。教員採用試験には、適正検査も実施し、教員の資質として必要とされる情緒安定性、責任感、積極性、自立心、自制心、指導力、協調性、外向性、研究意欲などの特性をもっているかを調べる性格検査も実施している。今回の事件を受けて、県教育委員会でも、あらためて「継続」、「心に届く」、「人間関係づくり」をキーワードに非違行為防止研修を実施するとともに、市教育委員会においても校長会と連携し研修等の充実に努め、あわせて対応マニュアルの点検改善、校長による教職員との面談による防止対策に取り組んでいるとのことでした。
5	健やかな子どもの育成は大変重要な課題だと思う。言葉で言っているだけでなく、学校と家庭と地域が一体となってやっていないといけない。例えば、高齢者が中心となって子どもの見守り隊を結成している。育成会の会員や職についてないお母さんたちもいるが、見守り隊にお任せすればいいというように見える。見守り隊に限らず、子どもの教育については学校に任せるという話が多い。議員の方々には広い見識を持って1、2回見守り隊に入って問題点を把握する必要があると思う。	<ul style="list-style-type: none"> 自分がPTA役員有的时候に、見守り隊結成にあたり各地区にお願いに回ったが、「親がやらないのになぜ地域でやらなければいけないのか」と言われた。そこで、全保護者に家の前に出て見守るだけでもいいということで始めた。その親の姿を見て地域の方も徐々に認めてくれて、見守り隊ができてきた経過がある。 議員の中に見守り隊に入って活動している者が何人かいるので、話を聞いて、問題点の把握に努めてまいりたい。
6	長野県で取り組んでいる毎月11日のあいさつ運動の一環を受けて、連合婦人会では、あいさつ運動を行っている。今年度は中学校で6、7、9、10月に実施するが、子どもたちの態度が随分変わってきた気がする。子どもたちの健全育成の中にはあいさつも取り込まれている。大事なことだと思うので、議員の皆さんからも声がけいただくとありがたい。あいさつ運動のような活動はいいが、子どもたちに知らない人にはあいさつをしないように指導していると聞くが実際にあるのか。	<ul style="list-style-type: none"> 市教育委員会に確認したところ、あいさつについては、友達や地域の方々とのあたたかな絆を感じあえる大切なことであり、学校でも特に大切にしていることの一つである。そのため、多くの学校が教育目標の重点目標に取り入れ、学校毎にその特色を活かし、様々な取り組みを行っており、あいさつが大切であるという指導を行っているとのことでした。

No.	質問事項	回答
7	<p>岡谷小の統合にあたり、議員さんも通学路に問題がないかの確認をしたという話だったが、一番遠い人はどのくらいの距離を歩くのか。</p> <p>また、田中小学校付近の西堀の子どもたちは長地小学校に通っているがかなり距離があると思う。市民体育館の周辺から長地小へどれだけの児童が通っているか。距離的にバス通学の対応ができないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市教育委員会に確認したところ、統合にあたり、通学路の安全対策については、様々な想定の中で危険性を排除するため、警察等関係機関とも十分検討をし、通学路の設定、グリーンベルト等の安全対策を実施してきている。統合により、歩く距離は長くなったり、短くなったり個々の状況により異なるが、1番遠い子どもでも2.4kmである。なお、2km以上の1、2年生については、スクールバスでの対応をしている。小中学校の通学区域は各区又は、各区の町内を基準として定めている。西堀区の小井川小、東堀区は長地小の通学区域となっている。市民体育館周辺は下浜区となり岡谷田中小学校の通学区域となり、横河川より下諏訪側は西堀区と東堀区が入組んでいる地域となっている。この周辺地域で長地小へ通学する一番遠い児童で、2kmを少し超えるくらいであり、対象児童は8名程度となっている。通学バスについては、学校統合による通学安全確保のための措置としてのみ行っているものであるとのことでした。
8	<p>少年愛護委員で繁華街などをパトロールしていて、子どもがいなく感じる。小中学生がどの位の割合で塾に通っているか。</p> <p>子どものゲームづけもさることながら、最近大人がゲームづけになっているのが見受けられるが、そこも含めて調べてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 子どものゲームづけやスマホゲームは今の時代大きな問題であり、一般質問でも取り上げているが、重要な愛護委員の立場で子どもたちの動きがまちにないのご意見を参考にしながら塾通いについて把握し、ゲームづけの課題についてもどんな状況か総務委員会として調べていく必要があると感じた。親のゲームづけで子どもがほったらかしになっているのご意見も気になることである。 市教育委員会に確認したところ、子ども達がどのくらい塾にかよっているかは、市で調査したことはないが、文科省で各都道府県レベルでの通塾率を調査している。その結果によると長野県の中学生で49.7%（全国61.1%）、小学生で40.3%（全国47.3%）、全国的に見ると低い状況である。少年愛護委員さんのパトロールにでも、繁華街に子ども達がいなくなったと感じているように、インターネット環境の普及や、ゲーム、携帯端末の普及により、外に出ず、家の中で遊ぶ子どもが増えていると分析している。
9	<p>部活について、先生たちに負荷がものすごくかかっているのではないか。部活の適正な人数が確保できず、単純に部活の数を減らすだけでいいのか。</p> <p>健全育成の中で、自分が中学時代、部活動で人間性を鍛え上げてもらったとの思いがある。適正な人数が確保できないし、今後どんどん減っていただけなので確保できるわけもない。単純に部活の数を減らすだけでいいのか。減ることがわかっているなら何をしたらいいかというところが議員の皆さんの肝になるところだと思っている。学校の先生もクラスが減っているので負担が増える。他の受け皿のところで、親の負担がかなり増える。部活に朝練がなくなっていると</p>	<ul style="list-style-type: none"> 総務委員会で全校長と意見交換会を開いているが、部活動の問題もあがっている。先生方は、市民から情報教育や情報モラルについてやってほしいと言われ、学校でもいろんなことを教えられすぎて、大変である。親御さんの価値観で子どもにスポーツをさせたい、勉強をさせたい、自由にさせたいと色々な考えの方がいるので、その辺の話をしながら考えたい。部活の設置についても、公のものか任意のものか、責任の所在など難しい問題が出てきているので、その辺も協議したいと思っている。 市教育委員会に確認したところ、中学校の運動部については、平成26年2月に長野県教育委員会が策定した「長野県中学生期のスポーツ活動指針」を受け、適切かつ効果的に実施できるよう平成27年2月に岡谷市中学校運動部活動あり方指針を策定している。この指針では、休養、総活動時間、朝の活動、放課後の活動、部活動の延長としての社会体育などを定め、メリハリのある練習計画によるバランスのとれた学校生活、生涯にわたってスポーツに親しむ習慣の形成、運動好きな生徒の増加といった目指す姿を示し、生徒の主体性を尊重した活動を目指すことを掲げている。今後も4中学合同部活動運営会議等を開催し、課題について検討をしていくとのことでした。

No.	質問事項	回答
	聞く。時間も規制されていて、部活で活動する時間が制約されてしまう。先生たちは大会に行つて勝ちたい優勝したいと言うと矛盾がうまれるのではないか。	
10	家の前を北中生が通るが、道いっぱい歩いている。注意しても逆ににらまれたりしてあまり言えない。学校の方でも車で通学路専用でないから気をつけて歩くようにという指導をお願いできたらと思う。	・市教育委員会に確認したところ、登下校での交通モラルなどの指導については、機会あるごとに指導しているところであるが、更に指導を徹底してまいりたい。引き続き、見守っていただき地域の方で何かお気づきの点があれば、声がけしていただきたいとのことでした。

《ご意見・要望》

- 身内に情緒障がいの子どもがいて、その母親がとても悩んで困って行き場がない状態を目の前で見ている。あまりにも近すぎる身内はなかなかうまくことを進められない。その時、子どもが通っている学校の校長先生がとてもよくしてくれた。学校の教育現場では、私たちに見えないところで想像以上に大変な激務なのではないかと思う。学校に出したら学校任せではなく、親は自分の子どもだけでなく、お友達や近所や家の前を通る子どもとかにも心を配ることはとても大事なことだと思う。
- 育成会をずっとやっている。議員の皆さんに来月ある「わんぱくアドベンチャー」を見にきてほしい（阿南町・2泊3日）。勉強は学校にまかせてあるが、小、中、高校の縦の社会で、どうやって子どもたちを育てるか。上の者が下の者を見、下の者が上の後姿を見、これを徹底してやっている。そしてその子どもたちを地域へ返している。また、参加費が3,500円だが、その3,500円を出せない親がいる。子どもの貧困問題についても考えてほしい。
- 最近、三沢区は区民農園をやっていて、田植えなどを子どもたちと一緒にやっている。勉強以外のところも大事とっていて協力させてもらっている。
- 神明小のラボという放課後の教室に3年ほど参加していたが、地域との結びつきということを感じた。子どもたちが地域の人たちと手を取り合って生きていくという声をかけあって生きていく。地域の子どもたちが、地域の人に気軽に声をかけられないという社会が作られている。これを何とかして昔のように気軽に声をかける世界を作っていくといけな。ラボは放課後の教室で、塾へ行かない子が集まる。放課後勉強を見てあげ、一緒に体育館で遊びながら子どもと触れ合いの世界を作っていく。その世界に結びついたわれわれのような高齢者に、道で行き会うとラボの先生、と声をかけてくれる。今一番欠けているのはその世界がないこと。形が先に走って、心のつながりが薄れていないか。そういうものに対する危機感をもって、本当の意味で地域と結びつきを深めていくという教育していかないと改めて感じている。
- 親が働いて子どもを育てられる環境もあわせてしていただければありがたいと思う。